

確かな学力と豊かな心を育み、社会を生き抜くためのたくましさを持った生徒の育成 ～地域に中学生の顔がみえる学校へ～

記述評価 コロナ禍の様々な制約や対応に教職員の負担が大きいが、三密対策を徹底して引き続き豊かな学習保証をお願いしたい。				
中期目標	確かな学力の向上 (自己の目標に向かって伸びやかに成長する学校)	健康で心豊かな人間性の育成 (明るい挨拶と生徒がいいきと活動できる安全・安心な学校)	社会を生き抜く力の育成 (将来の支えとなる社会を生き抜く力・土台を育む学校)	家庭・地域との連携 (家庭・地域の期待に応え、家庭・地域に信頼される学校)
評価	◎	○	◎	○

【評価】 3段階（ A:十分に達成 B:おおむね達成 C:改善が必要 ） 【判定規準】 A:肯定的90%以上 B:肯定的80%以上 C:79%以下（アンケート結果A+Bの%）

中期目標	重点目標 (評価内容)	評価指標	判定基準 ●生徒 ○保護者 ◎教師 ★結果	結果	自己評価			学校関係者評価		
					評価	成果と課題	今後の方向性(改善計画)	評価		
確かな学力の向上	①学びが楽しい学校づくり(楽習)	・体験学習(本物に触れる)や学び合いを充実させ、周りの人と共に考え、自分の考えを主体的に発信する。	(生徒アンケート) ●①学校で学ぶことは楽しい。	87.5%	A	○成果 ①各教科で「ホンモノ」に触れる体験的な学習や仲間と協働的に課題解決を進めていくプロジェクト型の学習を意図的に設定するなど生徒が主体的に学びに向かう場の保障に努めており、自ら学ぶ土台となる「学びの楽しさ」を実感できている生徒が多い。 ②学びの基礎となる基礎的事項の定着を目指し、授業と家庭学習の両輪で学習を進めている。1学期は漢字検定と英語検定(それぞれ希望者受検)を実施した。また、今年度から「定期テストToDoリスト」を作成し、見直しをもって計画的にテスト勉強に取り組むよう指導している。見直しをもって学習に取り組んだことでテストの平均点や課題の提出状況は良好であった。学習時間の記録も行い、テスト直前の1日の平均学習時間は約200分であった。 ③「授業はわかりやすい」と回答している生徒が90%を超え、教師の工夫が授業により影響を与えている。「わかりやすさ」と「楽しさ」が相関関係にあるのではないかと考えられる。 ④今年度は、「単元の振り返り」を各教科で重点的に取り組んでいる。定期的に校内研修を開催し、授業実践の省察や各教科の「振り返りチェック」を行い、振り返りの意義や効果についての共通理解を図りながら進めている。 ⑤学習規律に関しては、全学級に「授業の掟(①ベル着②元気に挨拶③私語なく集中)」を掲示し、学校全体で取り組んでいる。どの授業も落ち着いた雰囲気、生徒は前向きに学習に取り組んでいる。 ▲課題 ①感染拡大防止のため、体験的活動や学校行事の縮減、グループワークなどの学習活動の制限など様々な制約がある。 ②2・3年における平日の平均学習時間の学年目標達成率が低い。 ③個々の頑張りによっている部分が多く、教員同士の相互参観や授業実践についての対話がまだまだ少ない。 ④振り返り活動はどの教科でも定着しつつあるが、振り返りの方法や振り返りの視点は各教科それぞれであり、共通したものがない状況である。 ⑤学習規律は、安心して学べるベースであり、100%の達成率を目指して教師と生徒がともに意識して取り組んでいくべき事項である。	①2学期は学校行事が多くなる。授業での学びを行事や学校生活に活かせるように、また、行事での雰囲気や授業や学級に活かせるように、双方向のつながりを意識して教育活動を行っていく。 ②2学期は、漢字検定・英語検定に加え、校内基礎学力テストとして計算力コンテスト、英語スプリングコンテスト、社会重要語句テスト、理科重要語句テストを予定している。個々の目標を設定し、計画的に学習を行うことを通して、基礎的事項のさらなる定着を目指す。平日家庭学習時間の目標達成率向上を目指し、課題の出し方や質・量を見直していきたい。「定期テストToDoリスト」は、中身を改良しながら継続して取り組んでいきたい。 ③生徒の声や意識を大切に、授業改善に努めていく。感染拡大防止の観点から様々な制約がある中での授業となるが、対策を徹底した上で、学びの楽しさがより実感できる授業づくりを継続して行っていく。また、校内研修を通じて、教師同士が学び合い高め合えるようなOJTを進めていく。 ④今後も単元の振り返りを大切にしながら取り組んでいく。そのために、教材研究を丁寧に行い、効果的な単元計画の作成を行っていく。各教科で取り組んでいる振り返りを共有し、精査して、穴水中振り返りスタイルの確立を目指したい。 ⑤教師からの一方的な要求ではなく生徒が当事者意識をもって主体的に考えられるように、生徒会と連携しながら「授業の掟」の徹底、安心して学べる雰囲気づくりに取り組んでいく。	A	・休校が明け、子どもたちは喜んで学校に通っている。コロナで教職員に相当の負担がかかっていることを心配している。先生方の手厚い指導に感謝している。学び合い場面など設定できにくいと聞いたが、三密対策を徹底して引き続き豊かな学習保証をお願いしたい。 →アルコール消毒、換気、給食の前を向いて間隔をとっての食事、清掃時の消毒、放課後の消毒など感染防止に取り組み、制約がある中しっかりと指導をしていく。	
			●④友達と教え会ったり、話し合ったりすることができた。	91.2%						
	②-1:基礎学力の確実な習得を図る	・補充学習、各種コンテスト、検定に取り組む。	(教員アンケート) ◎③読み・書き・計算・単語など基礎基本が身に付く指導を行っている。	94.7%	A			A		・定期テストの際の学習計画(TODOリスト)は、1年生にとって特に助かっている。計画的に学習する習慣が身につく。
	②-2:家庭学習の習慣化	・宿題チェックを徹底し、家庭学習の習慣化を図る。	(家庭学習時間調査結果) ★⑩学年目標以上達成している。(1年70分、2年80分、3年90分以上)	1年78.8% 2年22.5% 3年26.9%	B					
	③分かる授業と授業内容の定着を図る	・生徒が「授業内容が分かった、できるようになった」と感じ、国、県学力調査で国、県の平均を上回っている。 (今年度は休校期間があり、授業時数 確保のため実施せず)	●②授業内容は分かりやすい。	92.2%	A					
			(保護者アンケート) ○②学校は、授業を工夫してわかる授業づくりに努めている。	91.5%						
	④振り返りから授業改善へ(教師の授業力向上)	・次の学びや生活に生かす振り返りから授業改善を進める。	(学力調査結果) ★県平均を上回っている。(県差:A+15P以上、B+5P、C県平均以下)	今年度実施せず	B					
			●⑥振り返りから学んだことや新たな気づきの再確認が出来ている。	84.3%						
	⑤学習規律の徹底し、落ち着いた学習環境	・授業規律(ベル着、聴き方等)を徹底し、落ち着いて学習に取り組んでいる。	●⑦チャイム着席をしっかりと守ることができている	96.1%	A					
			●⑨私語をせず、授業に集中して取り組んでいる。	85.6%						
○④生徒たちは落ち着いて学習に取り組んでいる。			91.3%							
健康で心豊	①場に応じた礼法を身につける	・挨拶や返事など場に応じた礼法を身につけ行動する。	●⑩誰にでも、自ら進んで大きな声で挨拶をしている。	67.3%	C	・今後も全校での挨拶運動を継続するとともに、授業や部活動等、学校生活において返事をする場面では、しっかりと相手に聞こえる声で返事をさせていく。 ・2学期はたくさんの行事があるので、各活動を通して協力することや感謝する心を育てていく。				
			○⑦生徒はしっかりと挨拶や返事ができている。	81.6%						
	②規範意識の向上と道徳実践力の育成	・社会的なルールや規範意識を高める。	●⑫人が困っているときは、進んで助けたり、協力したりできている。	89.5%	A					
			○⑥学校は、豊かな心(思いやり、感謝等)を育む活動を行っている。	91.2%						
			○⑧学校はきまりを守るなど、基本的な生活習慣が身に付くよう指導している。	93.9%						

かな 人間性 の 育成	③責任感・協調性の育成	・互いに認め合い、仲間と協働してものごとを創り出す。	●⑰自分の係の仕事を責任をもって行う。 ●⑱自問清掃にしっかり取り組んでいる。	96.7% 88.2%	B A A	○係や委員会活動・自問清掃については、自分の役割を自覚し、責任を持って取り組んでいる。 △自問清掃にしっかり取り組んでいるという生徒の割合が、昨年度同時期に比べ6ポイント減となった。学年による差があり、1年生の達成率が68%と、2、3年生の96%台に比べて低いポイントとなっている。 ○7月にいじめアンケートを実施し、1件の訴えがあったが、迅速な対応でその後は起こっていない。 △昨年度からの不登校生徒(小学校含む)で、登校できていない生徒が2名いる。3年生1名は時々登校するようになった。また、別室登校の3年生1名もそのままである。 ○自分の健康については意識しているので、手洗いや歯磨きはしっかりと出来ている。また、体力向上のために部活動にも休まず取り組んでいる生徒が多い。	・不登校生徒の家庭との連絡を今後も密に取っていく。別室登校の生徒には、学習保証はもちろん、本人の困っていることを確認し、手立てを考えながら少しずつ学級にはいれるように支援していく。	B A A	・コロナで休校を余儀なくされ子どもたちに戸惑いはなかっただろうか。大会もなくなったと聞いている。生徒は心理的にきつかったのではないかと心配している。心のケアを十分図ってもらいたい。 →休校明けの6月スタートの1週間を個人面談の時間として設定し、担任が全員と面談し、不安や戸惑いなどの心理的負担を少しでも和らげるようにしてきた。元気に学校生活を送っている。 ・社会の中で、心配されているコロナ差別といったようなことはないだろうか。 →生徒の様子を見ていてその心配はないが、日頃から道徳の時間などを通じて、思いやりやお互いが気遣いができるように指導している。 →生徒のプラスの成長が見られた休校期間でもあった。家庭の中での役割や責任を果たす機会となった。保護者のアンケートでも成長を実感したとの回答も多く寄せられた。
	④いじめ、不登校への未然防止	・いじめ、不登校の未然防止に取り組む、特別な対応が必要な時は、組織的に対応している。	●⑬友達の悪口を言ったり、嫌な思いをさせることはしなかった。 ○⑨学校は生徒の悩みや問題に適切に指導対応している。	94.1% 91.6%					
	⑤健康体力向上及び自己管理能力の育成	・心身ともにねばり強くたくましさを作成する。	●⑭自分の健康を守るために、歯磨き、手洗い等をきちんとして行う。 ●⑯部活は休まず一生懸命頑張っている。	98.7% 94.8%					
社会を 生き抜く 力の 育成	①本物に触れる機会を増やし、生徒の視野を広げる	・各学年に、体験活動を設ける。 1年 車椅子・アイマスク体験11月 2年 わくワーク体験 7月 3年 ものづくり講座 1月など計画	★実施回数 ・A:各学年2回以上実施 ・B:各学年1回以上実施 ・C:実施せず		年間 で 評 価 A A A	(1年)○のとてまり栽培(休校中の登校日5月7日実施) (2年)○職業人インタビューを実施した(1学期実施) (3年)○新型コロナウイルスの関係で1学期はなし	(1年)職業人講話(2月) (2年)○わくワーク体験(夏休み期間中は未実施、新型コロナウイルスの関係で2学期1日で計画中) (3年)ブドウ収穫・ワインラベル作り等(ふるさと学習)	年間 で 評 価 A A	・コロナで地域社会、大人も元気やモチベーションを失った。そんな中学生のメッセージ性のある標語や言葉に勇気づけられた。励まされた。 →地域に中学生の顔が見える学校を目指している。コロナ禍で行事の企画・運営にも細心の注意が必要になっている。通常時の活動ができないが、少しでも生徒の豊かな体験的活動の機会を探っていききたい。 ・修学旅行はどうなるのか。 →2年修学旅行は、3年次の春に延期とした。状況を見て実施する方向。関東は明らかに困難。他地域でも広がっている。体験的な行事は工夫して実施していきたい。 ・職場体験について実施されると聞いて、地域のサポートに親としても感謝している。 →9月末に1日だけの形になるが実施していく方向で準備を進めている。地域の協力に感謝したい。
	②生徒のコミュニケーション力の育成	・学級活動、行事、体験活動、その他地域の行事等を通して、協力の大切さに気づかせ、人との関わり・コミュニケーション力を育成する。	●⑫進んで助けたり、協力したりできた。 ●⑬友達の悪口を言ったり、いやな思いをさせない。	89.5% 94.1%					
	③生徒会の自主的活動の充実	・体育祭、文化祭、穴中タイム、地域清掃、募金活動などの企画運営などを通して実践意欲・実践力が向上している。	★振り返り(変容を分析する) ・事後アンケート(自主性・達成感項目) ・振り返り感想文						
	④キャリア教育の充実	・各種体験学習により望ましい勤労観・進路観を育み、生き方指導を行う。 1年職業人講話 2月 2年わくワーク体験7月⇒10月に1日 3年高校体験入学7、8月⇒オンライン	○⑩進路(生き方)に関する指導・相談が行われている。 ★振り返り(変容を分析する) ・事後アンケート ・振り返り感想文	88.3%					
家庭 地域 連携	①家庭、地域との連携協力体制の確立	・学校は積極的に情報発信を行い、保護者は学校の教育方針を理解し、連携協力関係が作られている。また、学校は、保護者が学校へ足を運ぶ機会をつくっている。	○①学校は、教育方針や教育活動の様子を分かりやすく伝えている。	95.6%	B	○新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、育友会総会が紙面により実施する形となった。また、授業参観、学校公開も中止とした。学校だより、ホームページ等で、機会あるごとに学校のめざす生徒像、授業像、学校像、教師像が明確に伝わるようにした。 △休校などもあった関係で、ホームページでの情報発信がこれまで以上に求められる。	・9割近い保護者がHPを見ていてと回答している。学校だよりの充実。ホームページでの生徒の活動の様子を写真も掲載し伝わるようにする。 ・人と地域を結ぶ道徳教育推進校に指定された。新型コロナウイルスの感染予防の観点から、今年度の研究発表は中止となったが、感染状況を見てになるが11月5日に道徳の授業参観を今のところ予定している。	B	・コロナ禍の中で、教職員が一体となって生徒のために様々な取り組みをしていることが分かった。その分、教職員の健康を心配して感謝している。保護者からも同様の意見を聞いている。十分健康に留意してほしい。
			○⑭学校と保護者・地域との協力連携が効果的に行われている。 ○⑮学校が発信する情報を見ている。(便り、ホームページ等)	87.2% 88.5%					
			・効率的に業務を遂行している。 ・ワークライフバランスにつとめている	(定時退校日＝毎月1回) (部活動休養日＝平日1日・休日1日) ◎⑯業務の効率化を進めている ◎⑰ワークライフバランスにつとめる。 (勤務時間調査) ★時間外勤務を月80時間以内とする。 A70h以内 B80h以内 C90h以内					
働き 方 改 革	①業務の効率化を図り、ワークライフバランスに努める				B	◆残業が80時間を越える職員が、4月0人(6)、5月0人(12)、6月4人(13)7月6人(0)である。7月の増加は、は31日までに授業日であったことが要因。()は昨年度の同時期のデータ。 ◆職員の月平均時間は、4月35時間(75)、5月13時間(86)、6月62時間(93)。4月、5月は休校期間中のため、6月は全登大会がなくなり部活動指導の時間が減少。7月は授業日が7月いっぱいであったため、71時間(60)に増加している。 ◆中学校での時間外は、部活動指導が主な要因である。部活後 若手は教材研究、中堅は校務分掌後に取り掛か	・計画性を持って段取りよく準備をする習慣をつける。 ・ICT活用。・仕事に優先順位をつける。 ・行事等でチームで分掌を行い業務の平準化を進める)朝の時間の有効活用 ・朝メモの活用で、会議のスリム化 ・ワークライフバランスを勧め自己研鑽の機会を呼びかける。 ・リフレッシュウイークの設定 ・部活動の複数顧問制で負担の軽減 ・計画的な年休取得の推進	B	・コロナ禍の中で、教職員が一体となって生徒のために様々な取り組みをしていることが分かった。その分、教職員の健康を心配して感謝している。保護者からも同様の意見を聞いている。十分健康に留意してほしい。